

# 日本RNA学会会報

No. 23 (2011年1月)

## 目 次

- ・ 会長巻頭言「創造性、個別性、国際性、女性」 ..... 1
- ・ 日本RNA学会第5期・第6期役員合同役員会議事録 ..... 3
- ・ 日本RNA学会第12回総会報告 ..... 5
- ・ 2009年度 日本RNA学会 収支決算報告 ..... 6
- ・ 2010年度 収支予算 ..... 8
- ・ RNA2011 (16th Annual meeting of the RNA society、第13回日本RNA  
学会年会合同開催)のお知らせ ..... 9

## 巻頭言

### 「創造性、個別性、国際性、女性」

「知ること、発見すること、それを感動をもって知らせることは科学、芸術に共通した喜び。書かなければ発見したことになりません」というメッセージを残して昨年逝ってしまわれた多田富雄の『落葉隻語 ことばのかたみ』（青土社 2010）の中に、石坂公成の言葉として以下のようなことが語られています。

独創的な研究とは「誰もやらない研究」ではない。競争の激しい一流の主題は、それが万人にとって大切だからこそ人が集まるというものである。それを避けて競争の少ない主題に逃げると、一生、落ち穂拾いのような研究しかできない。競争の激しいところに勇気をもって参加するアグレッシブさをもたなければならない。さらに、実験をやるときは、必ずうまく行くと思ってやれ。どうなるかわからないと自分があやふやに思っているのはうまく行くはずがない。そして、最後は実験をやっているマウスを睨みつけろ。

また、同じ本の中で、多田は、独創性とは個人の顔が見えること、つまり、やり方がどこか他の人とは違うという個別性を生み出すことである、と言っています。さて、近年、新しい解析技術が次々に開発されてきています。次世代シーケンサーを含むこれら新しい技術は使わないと損です。新しい技術を使わないと新しい発見も新しいアイデアも出てきません。でも、ここで問われるのは、あなたならどのようにそれら新技術を使いますか？あなたの顔がみえるカタチでこれら新技術を使うことができますか？

独創的な研究を進めて行くためには、国際的であるということも重要な要素です。国際的であることは、おそらく、自分の考えを言葉で伝える情熱をもつことだと思います。

「その中堅研究者、苦みばしった無口な高倉健のフリをしてる場合じゃないよ、国際社会においては、何も考えていない単なる馬鹿にみられますよ」

「ラポでiPodをイヤフォンで聞いている君、背中から“相互作用拒否”光線が出てますよ」

言葉が足りなくても判ってもらえると思うのは俳句文化に浸る日本人の考え方です。一流の国際的な研究者の多くはとてもおしゃべりです。私の好きな英単語に“obnoxious”というのがあります。特に、若い人はおしゃべりでヤンチャで行儀が悪く生意気でobnoxious/‘イヤなヤツ’な存在（その上で可愛げがあると尚良い）になることが国際的であることへの具体的な近道であると思います。この6月に開催されるRNA2011Kyoto Meetingで試してみましよう。伝えようとする情熱があれば、

そして「言葉を尽くさなくても、話し相手は含意とか言外の意味だとか行間だとかを読み解いてくれるはず、だって彼らはPh.D.だもん」なんて丸投げの甘い考え方を放棄すれば、（ぎこちない英語で表現された）あなたの存在は国際的なものになるはずです。そして、さらに国際的になるための自己トレーニングとして、海外にどんどん出て行きましょう。

国際化を考えた場合、極めて重要なことは女性の活用です。民族の文化や伝統（よくしゃべる男より無口で静かな男になることを強要される文化とか）が色濃く染み付いている男性達に比べ、一般に女性は既に国際的です。たとえば、会話を楽しむことを知っています。

「その“女性”（“女流”？）研究者、そのあなた、いつ定職を得られるかわからないこんな業界ヤツテラレナイヨとか、ヤッパリ安定が一番さっさと就職しよーかなとか、30すぎてポストはきついか、現在1万8千人もいると言われているポストの中から女神が私に微笑みかけると思えるほどノーマンじゃないとか、それに見渡してみても全日本RNA業界には女性教授はほとんどいないし（1人？）とか、さらには、私のサポートで夫と子供が仕事と勉強に打ち込めればそれはそれで良い人生かもとか、そんなことを思い始めていませんか、降りることを考えていませんか」

「Don't make assumptions about what your capabilities are. Just try it and see how it goes」(Joan Brugge, JCB 189:922-923, 2010)

「女性研究者が働くための理想的な環境整備をグズグズ待っていたら、すぐ年とっちゃうよ」

「あの旦那より君の方がよっぽど優秀じゃん、夫のサポートで思い切り仕事に打ち込める妻というのになったら、その方が収入も多いと思うよ」

パートナー（夫等）やボスや同僚、そして親やご近所や役所を「うまく使う（こき使う）方法」を見つけましょう。思い切って obnoxious な存在になって、とにかく、一つずつ、試してみましよう。そして、降りずに踏みとどまる良い「やり方」を見つけてください。この研究はあなたでなければできないという必然性と個別性、そして（天からの）「要請の声」と「小さな頃からの夢」があるはず。あなたが自己中心的に『要請の声』に反応し『夢』を追求することが、そして、あなたが降りないことが、ひいては日本の RNA および科学全般の発展と国際化の促進に必ずつながります。

2011年1月

塩見 春彦

## 日本 RNA 学会 第 5 期・第 6 期役員 合同役員会議事録

日時：2010年7月27日（火）12:30～13:30

場所：一橋記念講堂 特別会議室101号室

出席者：（50音順、敬称略）

第6期評議員：稲田利文、内海利男、塩見春彦(会長)、塩見美喜子、鈴木勉(副議長)、谷時雄、泊幸秀、中村義一、廣瀬哲郎、吉久徹

第5期評議員：大野睦人、坂本博

第5期役員：井川善也、内藤哲

第6期役員：片岡直行、坂本泰一、中村輝

欠席者：饗場弘二、井上邦夫

### 1. 開会挨拶

- ・塩見春彦会長が開会挨拶を行った。

### 2. 活動報告等

- ・庶務幹事を東京医科歯科大・片岡直行氏、会計監視を千葉工業大・坂本泰一氏（留任）、編集幹事を理化学研究所・中村輝氏にそれぞれ委嘱したことが報告され、承認された。
- ・片岡庶務幹事が会員数推移を報告した。
- ・賛助会員である企業の方々が年会に参加される場合、年会参加費を1名分無料とすることが申し合わされた。

### 3. 2009 年度会計報告・2010 年度予算案

- ・坂本会計幹事が2009年度の収支決算報告を説明し、この会計報告書が会計監査委員（松藤・剣持委員）によって承認されたことを報告し、承認された。

### 4. 第 12 回年会準備・開催状況について

- ・鈴木集会幹事より7月27日時点での参加者数等、本年度年会の開催状況について報告があった。

### 5. 第 12 回総会議長・副議長の推薦

- ・塩見会長より第12回総会議長に千葉由佳子氏を、副議長に斎藤都暁氏を推薦したいとの意向が伝えられ、了承された。

### 6. 第 13 回年会(第 16 回 RNA Society Meeting RNA2011Kyoto)世話人(第 6 期集会幹事)の推薦

- ・塩見会長より、中村義一氏を世話人として正式に指名したいとの意向が伝えられ、了承された。

### 7. 第 13 回年会（第 16 回 RNA Society Meeting RNA2011Kyoto）について

- ・中村義一集会幹事より、年会の準備状況の報告と援助金として300万円を予算として計上したいとの要請があり、了承された。

## 8. その他

- ・ 中村輝編集幹事より、会報の郵送取りやめについて提案があり、会報のうち冬の号をPDFとし、電子メールに添付して会員に送付することを決定した。
- ・ 評議員選挙における選挙権、被選挙権の明確化  
選挙権は一般会員、学生会員及び名誉会員にあるものとし、被選挙権は一般会員と名誉会員にあるものとして運用することを確認した。
- ・ 学協会法人格取得動向について片岡庶務幹事より報告があり、当面は静観する方針が確認された。

## 日本RNA学会第12回総会報告

日時： 2010年7月28日（水） 17:00 ～ 18:00

場所： 学術総合センター 一ツ橋記念講堂

1. 塩見会長が開会挨拶を行った。
2. 総会議長に千葉由佳子氏、副議長に斎藤都暁氏を選出した。
3. 委任状および議場参加者の確認を行い、総会成立に必要な100名を越えていることが千葉議長から報告され、総会の成立が宣言された。
4. 片岡庶務幹事より、下記の報告が行われた。
  - ・ 2010年7月21日現在、正会員646名（一般会員425名、学生会員220名）、寄贈・賛助会員は11団体、名誉会員は1名。会員数は昨年度より増加。
  - ・ 塩見会長より2011年のInternational RNA SocietyのAnnual Meeting（第13回日本RNA学会年会との共催）は、東京大学の中村義一先生を集会幹事とし、2011年6月14日(火)～18日(土)に、京都市国際会議場で開催予定であることが説明され、学会員への参加及び協力の要請があった。
  - ・ 事務局から会費納入と、自動引き落としの依頼、および、所属情報のアップデートの依頼があった。
5. 坂本会計幹事から2009年度の収支決算の説明、会計監査委員による同決算の監査結果が報告され、異議無く承認された。
6. 坂本会計幹事から2010年度予算案が提出され、その際、塩見会長より2011年のInternational RNA SocietyのAnnual Meeting（第13回日本RNA学会年会との共催）の援助金として300万円を予算として計上することの説明があり、異議無く承認された。
7. 中村輝編集幹事より、会報の郵送について、会報のうち冬の号をPDFとし、電子メールに添付して会員に送付することの提案があり、異議なく了承された。
8. 鈴木集会幹事より、第11回年会の開催状況が報告された。
9. 千葉議長より閉会の挨拶があり、総会が終了した。

## 2009 年度 日本 RNA 学会 収支決算報告

2009 年度（2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日）の学会会計収支予算は以下のようになりましたのでご報告いたします。

（2009 年度会計幹事：坂本泰一）

収入の部			
科目	予算額	決算額	備考
学会費	2,691,600	2,606,087	一般会員会費 2,326,087
賛助会費	420,000	270,000	学生会員会費 206,000
第 11 回年会より返金		800,000	入会金 74,000
雑収入		4,401	
預金利子	3,000	1,089	
収入小計	3,114,600	3,681,577	
前年繰越金	2,176,653	2,176,653	
合計	5,291,253	5,858,230	
支出の部			
科目	予算額	決算額	備考
事業費	1,200,000	1,724,268	
年報発行	200,000	181,598	No.20,21 会報制作印刷
年会補助金	1,000,000	1,500,000	第 12 回補助金
その他	0	42,670	第 11 回クバプロ費用
評議員費	110,000	20,762	
旅費・会議費	100,000	0	
その他	10,000	20,762	評議員選挙経費
業務委託費	682,500	682,500	クバプロ
一般事務費	280,000	240,334	
印刷通信費	170,000	226,065	会報発送等
庶務事務費	30,000	0	
雑費	80,000	14,269	振込手数料
予備費	50,000	15,750	お葬式花代（三浦先生）
支出小計	2,322,500	2,683,614	
次年度繰越金	2,968,753	3,174,616	
合計	5,291,253	5,858,230	

## 監査報告書

# 監査報告書

日本 RNA 学会

会長 中村 義一 殿

平成22年 6 月 14 日

会計監査委員 松藤 千弥



剣持 直哉



2009年度日本 RNA 学会会計報告書について、関係書類とともにその内容を慎重に監査した結果、正当であることを認めます。



## 2010 年度 収支予算

2010 年度（2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日）の学会会計収支予算は以下の通りです。

（2010 年度会計幹事：坂本泰一）

収入の部			
科目	2009 年度	2010 年度	備考
学会費	2,691,600	2,704,800	一般会員会費 2,472,000 (7,500 円×412 名×0.8)
賛助会費	420,000	450,000	学生会員会費 232,800 (2,000 円×194 名×0.6)
第 12 回年会より返金		500,000	2009 年度に準備金として 1,500,000 を支出
預金利子	3,000	3,000	
収入小計	3,114,600	3,657,800	
前年繰越金	2,176,653	3,174,616	
合計	5,291,253	6,832,416	
支出の部			
科目	2009 年度	2010 年度	備考
事業費	1,200,000	3,200,000	
年報発行	200,000	200,000	
年会補助金	1,000,000	3,000,000	国際 RNA 学会準備金
その他	0	0	
評議員費	110,000	110,000	
旅費・会議費	100,000	100,000	
その他	10,000	10,000	
業務委託費	682,500	682,500	会員 600 名以上のため
一般事務費	280,000	280,000	
通信費	170,000	170,000	
庶務事務費	30,000	30,000	
雑費	80,000	80,000	
予備費	50,000	50,000	
支出小計	2,322,500	4,322,500	
次年度繰越金	2,968,753	2,509,916	
合計	5,291,253	6,832,416	

## RNA2011 (16th Annual meeting of the RNA society、 第 13 回日本 RNA 学会年会合同開催)のお知らせ

RNA Society により毎年開かれている Annual Meeting が、日本 RNA 学会との共催で、アジアで初めて開催されます。また、本会は第 13 回日本 RNA 学会年会 (RNA ミーティング) をかねた形式で実施されます。

開催日時 : 2011 年 6 月 14 日 (火) ~18 日 (土) 京都国際会館にて

URL: <http://www2.convention.co.jp/RNA2011>

ポスターPDF: [http://www2.convention.co.jp/RNA2011/images/pdf\\_leaf.pdf](http://www2.convention.co.jp/RNA2011/images/pdf_leaf.pdf)

主催 : RNA society (日本 RNA 学会共催)

オーガナイザー : Eric Westhof, Melissa Jurica, Lynn Maquat, Jamie Williamson, Haru Siomi and Yoshi Nakamura

基調講演 : Jennifer Doudna, Muthiah Manoharan, Mikiko Siomi

トピックス : 3' End Formation, Bioinformatics, Chemical Biology of RNA, Emerging Methodologies for RNA Science, Interconnections Between Gene Expression Processes, Mechanisms of RNA interference, Non-coding and Regulatory RNAs, Riboregulation in Development, Ribosomes, RNA and Epigenetics, RNA Catalysis, RNA Editing and Modification, RNA Structure and Folding, RNA Transport and Localization, RNA Turnover, RNA-Protein Interactions, RNAs in Diseases, RNP Structure, Function and Biosynthesis, Small RNAs, Splicing Mechanisms, Splicing Regulation, Therapeutic RNAs, Translation Regulation, tRNA, snoRNA, rRNA, Viral RNAs

**参加申込締切 : 2011 年 3 月 7 日 (月)**

### Conference Registration Fee

Registration categories	Early-Registration	Standard Pre-Registration
	Jan. 7, 2011-Mar. 7, 2011	Mar. 8, 2011 - May. 16, 2011/ On-site Registration
Member*	¥ 60,000	¥ 65,000
Non-member	¥ 70,000	¥ 75,000
Accompanying person (Reception fee)	¥ 10,000	¥ 10,000

**\*Includes both The RNA Society and The RNA Society of Japan.**

詳細 : 参加申込方法、会議内容などの詳細は、上記 URL にてご参照下さい。

問合先 : 日本コンベンションサービス (担当 : 深谷泉、嶋木綾乃)

Tel: 03-3508-1214, e-mail: [rna2011@convention.co.jp](mailto:rna2011@convention.co.jp)



Sixteenth Annual Meeting of the RNA Society

# RNA 2011

Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan

June 14 – 18, 2011

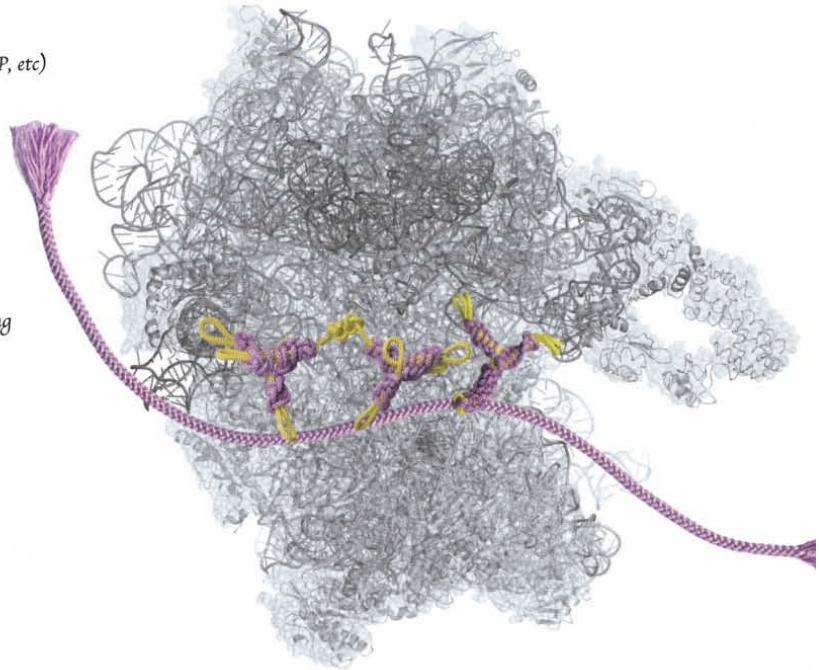
Abstract deadline: Early March 2011

For further information: <http://www2.convention.co.jp/RNA2011>



## Topics include:

- Alternative splicing
- Bioinformatics
- Catalytic RNAs
- Delivery of RNA therapeutics
- Genome wide analyses (HTS-CLIP, etc)
- Noncoding RNAs
- mRNA quality control
- mRNA transport and localization
- mRNA turnover
- Ribosomes and translation
- Riboswitches
- RNA chemical biology
- RNA editing
- RNA helicases
- RNA interference and gene silencing
- RNA-protein complexes
- RNA structure and folding
- RNA synthetic biology
- RNP granules
- snRNAs and snoRNAs
- Splicing mechanisms
- Therapeutic RNAs
- Translational control
- 3' end processing
- Viral RNAs



## Organizers:

- Melissa Jurica, University of California Santa Cruz
- Lynne Maquat, University of Rochester
- Yoshi Nakamura, University of Tokyo
- Haru Stomi, Keio University, Tokyo
- Eric Westhof, Institut de Biologie Moléculaire et Cellulaire, Strasbourg
- Jamie Williamson, The Scripps Research Institute, La Jolla



Coorganized by The RNA Society of Japan as its 13th Annual Meeting



## 日本RNA学会 会報 第23号(2011年1月)

発行・製作:日本 RNA 学会 編集幹事

連絡先: 理化学研究所・中村 輝

〒 650- 0047 神戸市中央区港島南町 2- 2- 3

電話:078-306-0103

FAX:078-306-3052

E- mail:akiran@cdb.riken.jp